

—サミール・ヌーハ教授（1946-2019）追悼記念—
CISMOR リサーチフェロー研究会

「アジアにおけるムスリム・マイノリティのイスラーム復興」

2020年1月11日（土）

本研究会について

故サミール・ヌーハ先生は、日本におけるイスラーム理解の促進、日本事情のアラビア語圏への発信など、教育、広報さまざまな分野において活躍されてきました。この度、CISMOR 運営にも尽力された先生を偲んで、ワークショップを企画する運びとなりました。

「アジアにおけるムスリム・マイノリティのイスラーム復興」研究会では、アジアにおけるムスリム・マイノリティに着目し、世界的に観察される宗教社会現象であるイスラーム復興のローカルな展開について検討を行っていくことを目的としています。今回の報告では、とくに、中国におけるウイグル・ムスリム、タイにおけるマレー・ムスリムを取り上げます。

本報告の趣旨

近代主権国家形成の過程で、宗教はどのように捉えられ、イスラームはどのように扱われてきたのだろうか。ウイグル・ムスリムやマレー・ムスリムにとって、ムスリムであるとは、またイスラームとはどのような意味を持つのだろうか。イスラーム復興をめぐるっては、ムスリムが多数派を占める国々の豊富な事例が蓄積されてきた。また、欧米諸国のムスリム移民第二・第三世代に関する研究も、イスラーム過激主義との関係で注目されている。一方、アジアにおけるムスリム・マイノリティの問題について、イスラーム復興の観点から検討を試みた例は限定的である。

本ワークショップでは、それぞれの国家による宗教政策や民族ナショナリズムについての検討を行いつつ、イスラーム復興と国家、社会との関係を検討したい。イスラーム復興が、国家・民族・宗教のあいだの関係を変容させているのか、あるいは、それぞれの社会の文脈がイスラーム復興の現れ方を規定しているのか、という点についてアイデアを提示できたらと考えている。報告終了後は、得られた知見を活用して、より広範な国や地域との比較検討に向けたワーキンググループの設置を模索する。

プログラム

15:30-15:35 ご挨拶

15:35-16:05 発表①

中屋 昌子(同志社大学研究開発機構・グローバル地域文化学部・特別任用助手)
「社会主義政権下におけるイスラーム復興—中国新疆ウイグル自治区を事例に」

16:05-16:35 発表②

西 直美(同志社大学研究開発機構・グローバル地域文化学部・特別任用助手)
「タイ南部国境地域におけるイスラーム復興のねじれ現象」

16:35-16:50 コメント

四戸 潤弥教授 (同志社大学神学研究科・教授)

16:50-17:20 全体討論

司会:北村 徹(同志社大学一神教学際研究センター・特別研究員)